

問1 (×)

競技者が正規のサービスの要件に合わないと確信した場合、注意が与えられる。

*確信した場合は注意ではなくフォルト（失点）である。

問2 (×)

ボールがネットを超えず、横からネットを迂回したり、台の下から相手コートに入った場合そのラリーは有効とはならない。

*ネットの横や台の下からでも入ったボールは有効である。

問3 (○)

競技者は、6ポイント毎、および最終ゲームのエンド交替時にタオルを使うための短い休憩を取ることができる。

*問題文のとおり。

問4 (×)

ボールが汗でぬれていた時は、相手の汗でも自分の汗でもレットとなる。

*自分の汗が原因でミスした場合はレットではなく失点となる。

問5 (×)

ラリー中に相手がわずかだが台を動かしてしまった。その時自分はリターンに失敗した。この場合は相手にポイントが与えられる。

*インプレー中にプレーイングサーフェス（コートの表面）を動かした場合は失点となる。（ムーヴドテーブル）

問6 (×)

攻撃主戦型と守備主戦型（カットマン）と試合をする場合は、守備主戦型に競技エリアを（後ろを広く）譲ってもよい。

*競技エリアは戦型に関係なく平等であるから動かす行為は認められない。

問7 (○)

服装は、団体戦の全競技者および個人戦のダブルスを組む競技者は同じ服装でなければならない。両者とも同じで互いに変えることに同意しない場合はくじにより決定する。

*問題文のとおり。

問8 (○)

団体戦の場合、競技者にゲームとゲームの間の休憩時間にアドバイスできるのは、ベンチにいてることを認められた誰からでも受けることができる。

*問題文のとおり。

問 9 (×)

促進ルールの適用はゲーム開始後 10 分経過し、双方とも 9 ポイント以上に達しない場合に適用される。

*双方の合計が 18 ポイントに満たない場合は促進ルールが適用される。

問 10 (○)

ラバーは、ラケット本体の外周いっぱいまで、しかも外にはみ出さないよう覆うものとするが、±2 mm 程度であれば容認できる。また、一部に損傷あっても表面の特性が著しく変化しない限り容認される。

*問題文のとおり。

問 11 (×)

サービスの時、ネットアセンブリに触れたボールをレシーバーがプレーイングサーフェスの上方で着用又は所持する物に触れた場合は、レシーバーのミスである。

*レットとなる。(この場合はネットに触れたボールがレシーバーによってオブストラクションされている。) ※ネットアセンブリとはネットとサポートのこと、オブストラクションとは進路妨害です。

問 12 (○)

サービスが開始されてから、ボールが打たれるまでの間、ボールは常にプレーイングサーフェスよりも高い位置で、かつサーバー側のエンドラインよりも後方でなければならない。

*問題文のとおり。

問 13 (○)

ラリー中に相手競技者のフリーアームがプレーイングサーフェスに触れリターンされた。この場合の返球は有効である。

*フリーハンド(ラケットを持ってない方の手首と指)が触れれば失点。フリーアーム(腕)や肘が触れても失点とはならない。

問 14 (×)

団体戦の抗議は、問題が生じたマッチに参加していたチームの監督のみが、個人戦では、その個人と登録されたアドバイザーが審判員又は審判長に抗議することができる。

- *団体戦：監督だけが抗議ができる。選手、アドバイザーは抗議できない。
- 個人戦：選手だけが抗議ができる。監督、アドバイザーは抗議できない。

問 15 (×)

ラケットはJ T T Aが公認したものでなければならないが、未公認の外国製ラケット本体を大会で使用する場合は、競技開始前に主審の許可を得れば使用できる。

- *主審ではなく審判長の許可が必要となる。

問 16 (×)

副審は、インプレーのボールがプレーイングサーフェスのエッジに触れたかどうかについて、近いサイドの場合は判定できるが、競技者のサービス動作がルール違反であるという判定はできない。

- *サービス動作がルール違反かどうかは副審も主審と同等の権限がある。

問 17 (×)

促進ルールが適用されたとき、ボールがインプレーの場合は、直前のラリーでレシーブした競技者のサービスで競技が再開される。

- *インプレー(ラリー中)の場合は、そのラリーでサービスをした選手がサービスを出す。インプレーで無い場合は、直前のラリーでレシーブした選手がサービスを出す。

問 18 (○)

休憩は、ゲームとゲームの間の1分以内であり、またタイムアウトを要求した場合にも1分以内である。

- *問題文のとおり

問 19 (×)

緊急中断は、けいれんや疲労による障害、転倒による負傷のような事故で、競技が継続できない場合にのみ認められる。

- *けいれんや疲労による障害は緊急中断とは見なされない。(試合が継続できなければ棄権となる。) 捻挫、鼻血等の治療は認められるが10分を超えることはできない。

問 20 (○)

勝敗を決定するゲームで、エンドを交代せずゲーム終了後に負けた選手が誤りを発見し、主審に抗議した。しかし、主審はこのゲームを有効とした。

- *問題文のとおり。

問 21 (○)

競技者はマッチ開始直前に2分を限度として、そのマッチで使用するテーブルで練習できるが、正規の休憩時間には練習できない。

*問題文のとおり。

問 22 (×)

競技者は、1マッチを通してラケットを交換することはできない。ただし、使用に耐えられない程度に破損した場合は、主審の許可を得ればどの場所からでも自由に持ってきて替えることができる。

*破損し交換しなければならない場合は、競技領域に自分で持ち込んであった別のラケット、または競技領域内で手渡されたものと交換しなければならない。取り替える場合はいつでも相手競技者及び主審に見せ、調べさせなければならない。

問 23 (○)

競技場内に掲げるチームの幕は、タテ1m×ヨコ4mを最大寸法とする横幕とし、旗はタテ1.5m×ヨコ2m以内で縦幕は原則として許可されない。

*問題文のとおり。(文字の大きさについても制限がある)

問 24 (○)

タイムアウトは、団体戦においては競技者、組又は監督が、個人戦においては競技者、組又は指名されたアドバイザーが要求することができる。

*問題文のとおり。

問 25 (×)

競技用シャツ、ショーツまたはスカート以外に、主審の許可があればサポーター・リストバンド・ヘアバンド・スパッツを着用できる。

*着用することは主審の許可を得なくてもルールで明記されている。

(広告はメーカーの商標・ロゴのみ1ヶ所とし1.2㎡以下、日本卓球協会公認用具指定業者の製品のみが認められる。)